

「教育実践研究論文」最優秀賞受賞

公益財団法人日本教育公務員弘済会広島支部が募集する令和2年度「教育実践研究論文」に応募したところ、最優秀賞を受賞いたしました。

「教育実践研究論文」表彰式を開催

今年度の「教育実践研究論文」学校部門には15編、個人・グループ部門には19編の応募がありました。これらを厳正に審査し各賞を決定しました。各部毎の最優秀賞を表彰するために学校訪問を行いました。



東広島市立下黒瀬小学校 柏木 俊明校長先生

「教育実践研究論文」最優秀賞論文の概要

学校部門

東広島市立下黒瀬小学校（校長 柏木 俊明）

研究主題：自分事として課題解決する児童の育成

～国語科「読むこと」における「めざせ！物語文マスター」の活用を通して～

本校の学校目標は「かしこく やさしく たくましく ～社会に出て通じる力の育成～」である。その目標に向かい、付けさせたい資質・能力の中で特に「思考力・判断力・表現力」に重点を置き、課題発見・解決力の力を伸ばそうと、本研究主題を設定した。

本研究を進めるにあたって、研究の手立では大きく2点ある。

1点目は、「自分事として課題解決を図るため」に、物語文教材において教材読解のための基礎用語を集めた「めざせ！物語文マスター」（以下「物語文マスター」）という小冊子に整理したことである。「物語文マスター」は、児童が物語文の読みを深めるためのよりどころとしたり、話し合いのための共通理解のための土台としたり、他の物語文への橋渡しができるように活用した。また、教師も「物語文マスター」に掲載されていることばを大切に教材研究を深め、授業が行えるよう活用した。

2点目は、「物語文マスター」を活用するための授業構成の工夫である。「物語文マスター」を日々の授業だけでなく、単元構成の中で意図的に活用する場を設け、単元のゴールを示した。単元のゴールを示すことで、児童にとって「物語文マスター」を活用する意義を感じると同時に、自分事として課題解決しようとする意欲も湧いてくる。また、授業展開の工夫を同時に行い、「物語文マスター」を活用し、各自が深まりのある課題解決を目指した。

これら2点を具現化し、児童が自分事として課題解決をすることを積み上げていけるよう取組を行った研究である。